



## 沖繩の独立

浅野 純次  
(経済倶楽部理事長)

▼1月の経済倶楽部理事会で「沖繩は厳しい状況下にあるのに国の対応はかばかしくない。このままだと沖繩自治州を要求する動きへと向かいかねない」という意見が相次ぎました。沖繩の置かれた状況に言葉では同情、同感の意を表しながら、政治家もマスコミも世論も他人事のような対応になりがちです。

▼1月28日の朝、沖繩の全41市町村の首長など100人以上が、普天間へのオスブレイ配備撤回と、基地負担の軽減を政府に求める「建白書」を政府に提出しました。41市町村の首長がそれぞれ直筆で署名した建白

書は江戸時代ならさしずめ血判書でしょう。これだけの思いを込めて沖繩の人々が訴えに上京しているのに菅官房長官が受け取ってお引取り願おうとしました。首相に直接、訴えたいと粘った首長たちに押されて、結局、顔を出した安倍首相から「基地負担の軽減に向けてがんばっていきなさい」という言質が引き出せたそうです。本当は首相の側から願わしいでも会うべきところだったのではないのでしょうか（この動き、主要紙は一段ベタ記事の簡単な扱いです）。

▼民主党政権時代、官邸で購読していた新聞雑誌を合理化のためと称してはつきり切りました。その中には沖繩タイムスと琉球新報も含まれていたのですが、政権交代を機に両紙とも復活した由。沖繩をまじめに考えようとしたらこの二紙に目を通さないなどということはありえません。現役時代、沖繩に再三、取材に行きましたが、最大のニュースソースは両紙で、記者の方々からいろいろな情報を聞き、取材源も紹介してもら

いました。全国紙の那覇支局発では沖繩の人々の本當の思いは伝わらないし、そもそも東京本社編集者の判断で記事の扱い方も変えられてしまっています。

▼沖繩へ最初に行った1970年頃、まず驚いたのは那覇空港から市の中心部へ向かう道路の両側に基地のフェンスが延々と張られていて、いわば基地の中に道路を一本、畏れ多くも通させていただいているような倒錯した風景でした。沖繩本島の18%が米軍基地で、日本の米軍基地の7割が沖繩に集中しているという事実は、いかに沖繩に負担を強いているかを赤裸々に物語ります。騒音、事故、米兵の犯罪その他の事件、そして日米地位協定を沖繩の人々が甘受してきたところへオスブレイの配備と来ては忍耐も限界でしょう。

▼怒りや不満が臨界点に達したとき、世界では暴動が起きますが、沖繩に暴動はあまり似つかわしくありません。それよりいくら言っても中央が聞く耳を持たないなら独立だ、という動きが出てこないとも限りません。折

しも世界では独立運動が盛り上がっています。スペインのカタルーニャ自治州、バスク自治州、ベルギーのフラマン地域は独立デモや選挙での緊張が続きます。スコットランド、コルシカ島(フランス)なども潜在的に火種があるし、中国やロシアの周縁部もいずれ何かが起きるでしょう。これら独立への動きの根底には民族、言語、格差の問題があります。

▼沖繩だって民族(歴史)、経済格差があり、そこへ基地の重圧とくれば立派な独立運動の火種でしょう(言葉も文化も独自の世界です)。独立運動で喜ぶ国も周辺には何か仕掛けてくるかもしれない。そもそも尖閣は沖繩との関係が深く今は石垣市です。安全保障は大事ですが何も沖繩だけが苦勞する必然性はありません。日本の戦後事情とその後は無策、アメリカの都合でこうなっただけです。独立運動まで行ってあたふたする前に、まともに対応して沖繩の人々の戦後の苦勞に今からでも報いるべきではないでしょうか。